## ウクライナ侵攻 世界の視点② ブラジル

## 大国外交一への転換がはらむ路線対立

そこには、基幹産業である農業の振興に不可欠な肥料の調達という 経済要因に加え、ブラジル伝統の中立外交を転換し、 ロシアの軍事侵攻直前にモスクワを訪問したボルソナーロ大統 |大国外交||を志向する政治的思惑が見てとれる。 領

朝日新聞前サンパウロ支局長

語を学ぶ。西部報道センターなどで原 社。アルゼンチン、キューバでスペイン 支局長。現在はオピニオン編集部記者。 などを取材し、一八~二三年サンパウロ 大学院修士課程修了、朝日新聞社入 おかだ げん 二〇〇三年同志社大学 沖縄、外国人留学生労働者問題

た。一・五メートルの距離で二時間にわたり行われたとい たボルソナーロ氏は、ロシアの軍事侵攻の意図を否定し、 う会談の後、「プーチン大統領は平和を求めている」と語っ ア軍が集結し、緊張が高まっていた時期だ。米国のバイデ ブーチン氏を擁護する姿勢を示した。 ン政権は訪問の中止を求めたが、ボルソナーロ氏は強行し ン大統領と会談した。すでにウクライナ国境地帯にはロシ ブラジルのボルソナーロ大統領はモスクワを訪れ、プーチ ロシア軍がウクライナ侵攻を始める直前の二月一六日!

> 氏にとって、アグリビジネス業界の支持は再選に欠かせな 訪ロは肥料供給の確約のためだったとみられている。 と話は別だ。カリウムや窒素などの肥料をロシアやべ シアは目立った国ではなかった。だが、農業に目を向ける 対ロシア制裁も発動しなかった。 い。農業はコロナ禍でブラジル経済を支える産業でもある。 ルーシからの輸入に頼る。支持率低迷が続くボルソナーロ ともにBRICSの一員とはいえ、ブラジルにとってロ ラ

## 政権内部における二つの「中立」の含意

はそれだけではない。アマゾン熱帯雨林の破壊を容認し批 しかし、 欧米諸国の制止を振り切ってまで訪問 した理由

ソナーロ氏は「ブラジルはどちらの味方もしない」と表明。 プーチン氏に利用された形になったにもかかわらず、ボル

ウクライナ侵攻が開始されたのは、この八日後だった。

あった。

護や民主主義の尊重を求める欧米諸国への意趣返しの面も護や民主主義の尊重を求める欧米諸国への意趣返しの面も示してくれるのはプーチン氏だけだった。訪ロは、森林保や田野を

因になった。

「対していった。

「対していった。

「対し、ボルソナーロ氏は、これを転換させようとは、いわば、「南」の代表という立ち位置を長らく続けては、いわば、「南」の代表という立ち位置を長らく続けては、いわば、「南」の代表という立ち位置を長らく続けては、いわば、「南」の代表という立ち位置を長らく続けては、いわば、「南」の代表という立ち位置を長らく続けては、いわば、「南」の代表という立ち位置を長らく続けては、いわば、「南」の代表という立ち位置を表さく続けては、いわば、「南」の代表という立ちにあるとも、バイデン政権になるとそれは離間の原語がな外交姿勢から離れ、トランプ政権との距離を急速にある。

にまでつながる人はわずかだ。

ただし、政治家は違う。一〇月の大統領選への出馬を

ルの投票行動だった。わっていない。それが如実に表れたのが、国連でのブラジわっていない。それが如実に表れたのが、国連でのブラジしたといわれるが、今も大統領府と外交官との対立は終二〇二一年三月に外相が交代し、外務官僚の自由度は増

ルは対ロシア非難決議に賛成した。大統領の立場とは明ら保理でも、三月三日の国連総会緊急特別会合でも、ブラジーロシアの軍事侵攻を受けて開かれた二月二五日の国連安

ラジルも例外ではないが、それがロシアの軍事侵攻の容認た行動に見えるが、ブラジルの国連大使は、非難決議に賛た行動に見えるが、ブラジルの国連大使は、非難決議に賛し、交渉による解決を強調した。棄権は、人権理事会の混し、交渉による解決を強調した。棄権は、人権理事会の混し、交渉による解決を強調した。棄権は、人権理事会の混し、交渉による解決を強調した。棄権は、人権理事会の混し、交渉による解決を強調した。棄権は、人権理事会の混し、交渉による解決を強調した。棄権は、人権理事会に対しる口がに異なる。一方、四月七日に国連人権理事会における口かに異なる。一方、四月七日に国連人権理事会における口かに異なる。一方、四月七日に国連人権理事会における口がに異なる。一方、四月七日に国連人権理事会における口がに異なる。一方、四月七日に国連人権理事会における口がに異なる。一方、四月七日に国連人権理事会における口がに異なる。一方、四月七日に国連人権理事会における口がに異なる。一方、四月七日に国連人権理事会における口がに異なる。

主張を強めており、その一環とみられる。ロ氏との違いを鮮明にするために、ルラ氏は反米左派的なライナ大統領や支援する欧米諸国を批判した。ボルソナービューで「ゼレンスキー氏は戦争を望んだ」と述べ、ウク表明した左派のルラ元大統領は、米タイム誌でのインタ表明した左派のルラ元大統領は、米タイム誌でのインタ

当選しても、欧米諸国に簡単に同調することはない。●ルラ氏当選を前提に語るのは時期尚早だ。ただ、どちらがソナーロ氏も巻き返しに必死だ。情勢は投票直前に動く。大統領選ではルラ氏の当選が有力視されているが、ボル